

会工同窓会々報

発行所

福島県会津若松市
徒之町1の37

発行人 吉田一栄



創立八十周年の

新春を迎う

応援歌

鶏鳴三度地に鳴きて

金陽の地の朝ばらけ

緋緋鐘ふ若武者が

血潮高鳴る

胸の鼓動

本校創立八十周年の新年を迎えるにあたって



会工同窓会会長
会津会工会会長

吉田 一栄

新年おめでとうございませう。会津盆地は、今、白銀一色に包まれ、太陽の光を浴びて、母校の発展をことごとくかのように輝いておられます。同窓生の諸兄も、ご壮健にて新春をお迎えになられたことと存じます。

本校八十周年ならびに、本郷分校三十周年記念行事実行委員会が発足してから早や一年が経過しました。この間、皆様の絶大なご協力を得まして、行事に対する準備活動も順調な歩みを見せております。特に、この行事の成否を握る資金部の募金活動は、多数の会員各位のご協賛のもとに着々と成果をあげ、目標達成に

もう一歩というところまで進んでおります。これは、一重に諸兄の記念行事に対するご理解の賜と、深く感謝している次第でございます。しかし、この一年間には私どもの同窓会として大きな悲しみもありましたことを、皆様にお伝えしなければなりません。昨年五月には、会長として若松会工会の発展に尽くされた秋山寛二先輩を失いました。また十一月には東京会工会長、全国同窓会長として長い間、会の発展のため献身的に尽力されました、偉大な功績者佐藤勝次先輩が黄泉に旅立たれ、その悲しみもつかの間、十二月には、元母校校長を務められた菊地巖先輩が、白雪の舞う中を、あの世に旅立たれました。同窓会の大きな三本の柱を失った感じがございました。この三先輩は来るべき記念行事には、多大の関心を寄せておられ、多額のご協賛を戴いておられ、この事実が私どもにとって大きな悲しみとなっております。

しかし私どもは、この三先輩が記念行事に対して寄せられたご期待にそつためにも、一丸となり行事完遂に精進してこそ、先輩のご恩に報いることになると思っております。諸兄のご協力をお願いする次第です。

今年、十一月二日には母校の輝かしい歴史を祝って、数々の記念行事が繰り広げられる予定でございますが、この成否は皆様方のご協力の如何にかかわるものであります。この行事が成功に終わるようご援助、ご指導をお願いいたします。

末筆ではございますが、寒気厳しい今日、この頃です。ご健康にはくれぐれもご留意なされ、ご多幸な年でありますようお祈りいたします。



記念誌の発刊について 創立八十周年記念事業

記念誌編集委員長

大塩 唯男

今秋、十一月二日には母校の輝かしい歴史を祝って、数々の記念行事が繰り広げられる予定でございますが、この成否は皆様方のご協力の如何にかかわるものであります。この行事が成功に終わるようご援助、ご指導をお願いいたします。

私共の編集委員にえらばれた時点では「文は変なことを」と思っていたのに、その初会議の席で、委員長を「と指名されたのには二度びっくりで、とてもとまらなかつたが、学校側から参加して頂いた先生方が、いづれも優秀なベテラン揃いでいらつしやるので安心して今迄仕事をすゝめてこられたのは本当に有難いことであつた。

小冊子ながら、六拾周年と七拾周年のそれを参考にし、何れも編集会議を開き、着々と進展をみている事は大きな喜びである。特に今回は過去十年間の出来ごとをスポンサーをあて現在の学校の様子を浮き彫りにしたい。その為には固い文章をさけ、写真なども出来るだけ豊富に取り入れて、魅力のある、親しまれる記念誌にしようと思つた。集方針から、次ぎ次ぎと面白アイデアが出て来て、大層楽しい会議が続いたのである。

各項目毎の割つけのノウハウも決り、担当の先生方も意欲的に取り組んで下さつていたので誠に頼もしく、きっと、立派な記念誌が出来上がるであろう。座談会や回想文なども内容の充実をはかり出来るだけ広範囲から寄稿を依頼し、昔のアルバムや珍らしい写真などがあつたら提供して頂いて賑やかにし、目で楽しんで頂くことも又大切なことなので、古い年表等も幾分か簡素化される部分もあることであらう。

原稿依頼、座談会の人選等にまだまだ仕事は山程あるわけであるが、予定通り進行しているの、各界諸兄に喜んで頂くので、記事作りに苦勞を重ねることが、反面楽しみでもある様なところである。

母校八十周年の 新春を迎えて

会津工業高等学校長

小森 五良

新年あけましておめでとうございます。卒業生の皆様、お元気で良い年をお迎えになられたこととお喜び申し上げます。本年九月に創立以来満八十周年を迎えることになりました。記念行事実行委員会が、第一は生徒諸君の活躍の方々の一方ならぬご努力によりまして、着々その準備を進めておられること、まことに有難く、厚くお礼を申し上げます。特に、募金活動については非常に順調と、駅伝競走が第三位と立派な成績をあげました。また吹奏楽が去る十一月二十九日、第一回定期演奏会を会津若松市民会館で開催し、一千名以上の聴衆にすばらしい感動を与え、会津地区高校では最高であるとの立派な評価をいただきました。このように、体育面、文化面、芸術面、健康とご多幸をお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

たことは、本校生徒の面目躍如たるものではないかと思ひます。また先生方の活躍ですが、本年四月より教育課程で実施する新科目「工業基礎」について、県教育長より二か年に亘つて研究を命ぜられていたのですが、その成果の発表会を去る十二月二日に実施しましたところ、県内工業高校はもとより東北六県の殆どの工業高校より、多数の先生方のご出席をいただき、非常に盛況裡にしかも全体的にも、最高の研究として好評をいただきました。このことが、福島県工業教育の先達として、十分その役目を果たすことができたと存じます。

以上昨年暮れの主だったことについて申し上げましたが、最後に皆様の健康とご多幸をお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

星佐小中三鈴雪斎福五十目白芳武鶴棚赤赤三長菅斎佐馬斎斎大須荒加山白星武荒宮橋海森真佐猪土金大角石甘三五十村阿佐鈴高大田五鈴小遠太 藤林村浦木 藤田嵐黒井賀藤川木城井原川家藤藤場藤藤場藤井藤内井 田川森本津山鍋木俣屋田塚田井利橋岡津藤木畑関代井木池藤田 周信昭公康利薫泰文英敏洋雄裕賢正慶孝敏 長仁光長栄豊 栄信光元義方治敏和正 幸榮和正 健広忠幸哲司雅松正健利喜哲庸 博 一仁夫佑作雄二昭夫夫治二次輝吉男昭信男優郎邇一雄助司守博吉憲治隆明美嘉夫夫光敏意喜男雄哲隆樹道雄夫夫國弘夫秋雄行助夫生明起視	MMMMTKECMMLKMMEMTAMEKMGTCMAKTALELLMCCE AE DEMMCCEDTTCLKCCMMMMMM
星佐穴内手遠豊鈴二星鈴佐矢小立小岩高佐佐上古河春渡小佐長大斎岩佐高渡佐塩諏荒辺二平河若阿荒岸高舟五十西佐佐佐田原中多佐田三長土 野藤沢芝木藤島木瓶 木藤沢柴川池沢橋藤藤野川河原日部野藤川竹藤沢藤橋部藤田波井見瓶田村林部井 羽木嵐川藤木瀬中 村田賀崎沢長谷屋 修孝正良利政洋忠源正元 健良 常 容太義幸信 博吉嘉照文 繁哲敏 光 為初直健政留 隆伊 喜清欣三十健忠伊 賢弘 泰正 司喜良吉夫利郎恵喜義春信一一登雄毅郎之明夫隆宜雄久雄男剛雄二喜茂意貴功男享夫喜三一明七広正一郎茂一次弥夫郎一伍夫武二平弘介雄	KTFAAKEEACTFGGGECECM CETMSTCGMCKGMDLMC MMAAM TMDLEEMLECECTCTTMD
讓佐馬平紀涌大佐関天五十鈴山波阿野沢菊星藤渡山渡広近小泰宮小櫻高大渡佐玉八子伊長松長猪秋五十角舟阿酒山小田角藤芳玉津大石山梅菊小 矢々木場野 井波藤 野嵐木宮野部口里地 原部田部田藤林 野柳田畑保部藤川弥藤川浦川股山子田田部井口山代田原賀川田竹田田宮地山 庄衆 義博 達孝行幸俊正義義英勝源義 容七裕祥祐俊修義 紀佳 敏寿兼隆栄武角利 孝昭正四 喜三孝武友祐 久光清 英 寿郎市孝美志洋貢也志雄雄行雄喜正雄人哉光弘徳一郎司郎一弘守武雄典薫保彦男雄幸一二次喜茂吉夫明郎伝忠市男雄夫春作佑郎利志和雄	MEMMCE M AGC MEATDMETMTKCM TGAC AGCFGKECMMMCCTE TGMMMLAEEMGA
連生田斎斎鈴木佐稲大星中宮渡鈴大鈴篠白佐阿角佐榎森渡桜小治星村佐兼松佐斎唐小笠小野高鈴佐荒佐本佐玉渡丸山秋山五百吉阿坂遠新田石小 沼井川藤藤木村藤本関 田森部木和木崎井藤部田藤田 部井林田 山藤田下山藤橋原柴崎橋木木木藤名藤川部山山山口川田部中藤国部川林 慎善八武正 行勇隆 益健富忠 恵辰秀英 光和一 正 岩邦邦紘信俊邦 勝三俊邦 正義靖久幸義静和勝正千利 久宗元昭二和 俊 宏一雄郎志雄修雄次夫亨雄介雄恵弘三美夫雄滉弘衛弘雄隆行進美男男一男彦男功衛郎男彦登雄明夫夫作隆夫喜英雄春郎力雄天一八夫夫正文	K MM M ATE TKLEMACETGECMME CCCCCCTLCECAMMECC KMM M
角土山星松長谷川高田国渡星野河五十穴麻中佐白新佐川金大高大佐坂郡中佐小村二高佐佐鈴山太広堀鈴小増鈴阿荒後三庄新杉武辺鈴渡田三松渡 田屋本 田川俣橋中井部 口田嵐沢田島藤井妻藤崎子竹橋島藤場 原藤熊山瓶橋藤藤木寺田田 木林井木部井田森司藤原井見木部中井浦部 嘉公芳秀与一 幸成征辰辰博忠雄 博勇健靖辰賢豊文清芳友恒充 正忠幹修俊善達 健平祥 重敏幸新喜盛新 俊 輝 幸孝正栄幸 衛明夫雄雄一義徹吉夫雄栄夫宣男治智範司二雄雄市明夫郎隆信雄男勉人次夫三夫郎也薫司治郎勉秋男郎吾充雄一久昭健努勝夫博郎雄春一男	TCTECEEFKCTKETMAKK T K KCT MEMLEMTETAMMEME EEFACMMMKECAAC
寺塚佐高五川秋中蓮高斎渡舟木渡原三鈴佐森国星安橋山鈴中江蓮渡 五千 大水笠古星斎渡竹二高青須鈴酒高清大長渡若長佐加渡塩渡安成谷星 崎原藤久嵐井山村沼橋藤部山村部 浦木藤 分 西本本木島川沼部 矢沼間川 藤部俣瓶橋柳藤木井久水沼島辺林嶺藤藤部越部藤田田 信小義勇昭純知正 信正尚恭 文貞久洋忠信 博淳 和義 円 洋卓尚七和嘉常 秀 徳佑栄孝悦 俊幸武忠忠敏博 宏昭健 保郎光一夫一章直健之利裕一弘睦雄親詞一喜一肇之一哲則昭博卓繁 三二武郎義次好勇男繁実雄主治政美繁彦一幸雄主彦子勝道助治豊久	LEGDMDEMTDET TデCDFKTKAEAE DGTCTG EEKL EAMM MAKKMKCEKKKMデACEK M
桜斎赤上池高寺三朝佐荒菊北小角室佐佐林武秋梅小星渡三佐塚阿古遠磯村山二小金平根黒松龍雪原小長真五涌菊山渡古古鈴鈴佐坂本古須磯 井藤地野田橋崎橋倉藤川地村林田井藤藤 蔵山津山 辺浦木原部川藤部松崎宮倉子野本田川川野 沢川壁嵐井地内部川市木木竹井間川藤谷 正正 吉正達信昭敏 誠充健征政 知洋克孝義真富良文義康俊武達孝克征昭重 好次正正光正正哲 邦勇昌哲 正一正正武晴鉄光 行利昭徳夫男保雄治教忠洋孝博一夫次夫則満章一則二伝一市克雄市治一光行之己二一夫岬明夫之也彦三弥朗潔雄市男磨薫志彦一博男美也喜	ECDE LCDECDCEFEFMT EGEDLCACMKMMMMMCMMLMLMCTKDGTDMK FC FEDE
栢古高栗星大佐目伊新神渡石小大穴山林蓮井森宮大星五十星渡吉氏徳菊成佐葉遠安鈴兼遠大大五十樋斎大安南渡鈴橋渡田大菊伊高湯影渡風小長 森崎橋城 山藤黒藤田山部田平塚沢中 沼上 田堀 五十 部田家永地田藤室藤西木子藤山浜嵐山藤竹土 部木本部中島地藤橋田山部間棕 幸雅徳 富士秀広太義俊幸 忠寛堅義彦平八勇康弘 弘恒 武 英正 昌義 修孝康祐三広健栄秀 昌敏正 良秀信佳功良大達正五良義弘 利 雄人夫子樹文男男也一明徹夫俊一夫作郎貴弘則栄均之久充弘浩雄浩学之位忠一男正一郎文一市樹聡生夫博伸一吉二夫一三彦男郎智徳喜修夫	MADTLGMMGM FGGTA AC MAGEECLMMDECCDDCDMGKCM LDCGEDMDCMKEGGMDMCDK
菊良公酒大佐新高吉高川藤波高小野崎村木木五十安二戸渡星齐真五十兼伊森吉菊別佐大江霜佐大竹小松山畠横浅坂星五十荒武神千笠渡片佐安田佐佐船秋赤 地田家井関藤妻橋井畑島井谷橋崎村村嵐 良部瓶部 藤船藤 田田府藤領川島木槻本山田 田沼内 嵐 木藤山葉間辺桐藤齐辺藤藤崎津井 陽光 興信 安吉倉 康一 和隆清 良孝武勇幸邦文 祐芳弘一 武 庄淳竹 祐一初博恵直美英喜美 幸美敬藤治昭秀文光政福洋近幸英紀喜代二 一永勇三任修誠氏造夫明雄夫肇夫一隆茂男夫彦一司彦夫勉一次則也学生寛一明雄誠一扶夫之治己幸貴雄 勲夫次郎昭男入信実一雄夫明男二	ACLME MGT TTTMAECAMAMGGGC AM ECLTTTFKCEC KT MLTCFKFE LEAEDGM
ADEFM G C K L T 科名(凡例) 鈴菅寺鈴折中佐高鈴清小河村二小星中山伊伊湯松沢大星鈴山古松佐伊金丹広大平 建電電精密機 工業応用 化学 窯 工 漆 織 染 以上 俊邦信義 武満修義 弘敏菊成 栄秀精秀正吉弘健廣啓哲征紘清征正範信 築子氣密機械 業 芸 工 維 織 敬 道夫保信昭巖秀夫昭一浩徹明英二二孝一一郎一喜光輔治志光弘雄一一次明雅義充 科科科科科 科 科 科 科 科 科 略 TA MC MTKKKKKLMKMC GG GKデFデFELCKKKKKKKE T	

東京会工會會長

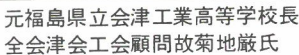
さきの会工同窓会長、同じく東京会工名譽会長、佐藤勝軒先輩が去年四月上旬野積養軒でなされた八十歳の賀の計画を洩らされたのは昨年の初秋であった。 「当日ぶざまな歩きようでは困るので、いま歩く訓練をしている」などといった。いまになって考えるその頃かた頻りに自分の死期というものを予見されていたとみていいのかもしれない。この九月一日、電話で「会いたいからきてくれ」というので会社の方に伺ったら一緒に食事しようという、上等の鰻を馳走になったが、更に数日して佐藤さんが会長のころ幹事長として連れ添った日下部さんにも同様のことをしたそうである。その翌日から床に臥せられたのであった。臥床されてからも、「この軸を松江春次翁の直系の方	にお返しするように」とか「これを誰それによってくね」などと片身分けのよくなことを家人に命じたというのである。死の一週間ほど前から食餌を受けつけないだったが「菊の懸崖」を見たというので会津からわざわざ大ぶりのものを送らせたが、とうとうそれを見ないで終った。十一月十日の早朝、私宅の電話が鳴った。私は突差に直感した「けさ四時二十五分亡くなりまし」とご家族からの知らせであった。予期は知っていたものの、なんとも名伏しがたい心理で胸にぽっかりと穴があいた。佐藤さんは、その剛直一徹ぶりを八十年見事に貫き通したから周辺にながしかの物語や「キョホウヘン」があったのも否めない。がしかは、佐藤さんの根底にはよく考えると「理」というも	のがあり、容易にそれを曲げたり屈したりということがなかったのだ。母校や同窓会の在りかたに、あれこれ口喧かましいことは言っても、その深層に涙ぐましいまでの愛情をひそめていたにちがいない。 東京会工会の歴大な事務にしても、数十年殆ど独りでさばいたといつて差支えないし、またその事に會員は思いを致すべきである。逝去の日の午後、ご自宅に弔問し、その「死顔」をおがんだが、生前のやややかめしいほどの顔容が、まるで美しい菩薩さまのように変貌されているのに私はげいしい感動を覚えたのである。実に見事な往生と称せざるを得ない。「大松院殿徹岳勝道清居士」の心からなるご冥福を祈る。合掌。	のあり、容易にそれを曲げたり屈したりということ
--	--	--	--------------------------------



会津工業高等学校教頭

昭和五十六年十一月三日、積った雪をふんで集まったこの冬初めて平野部に降り大勢の参会者によって、門田町、面川地区の、もとお家形さまと云われる故菊地

小滝彦市



先生邸で、しめやかに盛
大な葬儀が行われた。正午
には、県内外から、同窓生
、教育界、産業界の各層から
の花輪と参列者によって埋
めつくされた。

会工同窓会は、年末に二
度びつくりした。十一月十
日佐藤勝次会長の訃報。そ
して十二月一日、元校長菊
也敬領門の急逝である。丙
午の事、工場長として終戦、昭
和二十一年七月帰国。同年
十一月から母校でます。三
十余を勤務。電気科として
の初代科長で、当時隆盛を
さわめた田子倉ダムの建設
を背景に、電気科ブームを
呼び起こし、別科電気工事
課程、電子工学科の増設を
企画。更に、この間同窓会
の事務局長として、会のと
福を祈る次第です。

教職三十年未満であるの
に正六位勲四等の叙勲のあ
つたことは、異例のことと、
先生のご功績をかたるのに
充分な証拠になり得るもの
に思われます。

駄文ながらも、もってご冥
福を祈る次第です。

因は、風邪をひいたが、用心の為という事で、市内の病院に入院、ほぼ一か月で快方に向い、看護の方も安心してベッドを離れられた直後の急性肺炎であったという。

昭和三十六年四月から勿来工高教頭二年。小高工高校長三年。平工高校長三年を経て、本校一高校校長として昭和四十七年三月ご勇退までの三年間に学校内外の支

一年前、庭木の剪定中にはしごから落ちて、左足骨折。当時すい臓病治療中の奥様と、枕をならべてのご入院。二度の手術ですっかり快復され、お元気で同窓会役員会や総会に出席されておられた。参會者の間で「先生は、満七歳という事で、平均寿命前であり、人一倍健康には氣をつけておられた方だけに、六月に永眠された仲の良い奥様のものとへ急がれたのでしう。」という言葉にうなづく人が多かった。

先生は、母校の歴代四十四名の校長さんのうち、只一人の同窓生校長で、昭和四年三月染織科卒業、直ちに武蔵工專（現武蔵工大）電気工学科にすすまれ、ご卒業後渡満、奉天鉄道局、副参事をうけ大校長の面目を思ひどおり發揮されました。校長としての主な業績は、隣接地（旧工芸試験場庁舎）八十六平方メートルの本校移管、これは小森教頭（現校長）との協同事業で、いったん駄目となったものを復活させて大成功。現在の格技場。そして、この度会上会館（柔道場）の建設予定地で、これがなければ、記念事業も変っていた事と思われま。

又昭和四十六年十一月、七十周年記念式典で当時の東京会工会長佐藤藤次氏と意見の相違があった事は有名な今は、冥界でお二人が談笑されている事と思ひま。

先生は弁舌もさわやかで後輩が「金のペロ」と尊称していた事は、ご存知のようで、味方としては、この

おめでとうございます。謹んで新年のお祝詞を申し上げます。本年は本校創立八十年の記念すべき年であり、当り慶賀に堪えません。昨年十一月に、当会長就任致しました。当総会本部より校長小森五良先生、事務局長斎藤恵一先生の御出席を載いて盛大に、開することが出来ました。

校長先生から、創立八十年記念行事と、その事業特に、十月二十五日の本校における会工同窓会総会



会津工業高等学校教頭

北
村
源
龍

昭和五十七年の新春を迎え今年も同窓生の皆さんには益々ご健勝で各界各方面でご活躍くださいませよう心からご祈念申し上げます。さて本校創立八十周年記念の式典挙行日まで余すところ十ヶ月となりました。

記念行事並びに記念事業実行委員会によって計画されている各事業は順調に進められていきますので、その現状をお知らせいたします。

一、記念行事について

ページ広告を挿入。
編集委員長の大塩唯男氏（昭和十四年工業化学科卒）を中心に六名の委員が編集事務を担当しています。今後進められる主な編集事務は次の日程です。このご要望がありましたらご連絡くださいませう。

二月十三日同窓生の各科大代表と学校代表及び編集委員による座談会（内容は記念誌に掲載

(1)記念式典
実施日は昭和五十七年十一月二日午前十時三十分より(本校体育館)

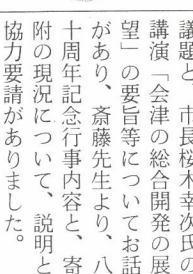
(2)祝賀会
昭和五十七年十一月二日午後一時より(会津若松市ホテルニューパレス)

二、記念事業

(1)記念誌発刊
回想文、祝辞等の原稿も当日までお願することになっております。三月三十日原稿整理完了。印刷発注の予定です。特に記念誌に載る写真等については山内松木氏(昭和十六年工業化学科卒)にお願いするつもりになりました。

(2)同窓会員名簿発刊

原田 利良



おめでとうございます。
謹んで新年のお祝詞を申し上げます。本年は本校創立八十周年の記念すべき年に当たり慶賀に堪えません。
昨年十一月に、当会長に就任致しました。当総会に本部より校長小森五良先生、事務局長斎藤恵一先生の御出席を載いて盛大に、開催することが出来ました。
校長先生から、創立八十周年記念行事と、その事業、特に、十月二十五日の本校における会工同窓会総会の現在当地区で、同窓会員が、約百余名、連絡の付く会員が、大阪三十九名、京都二十三名、兵庫十五名、合計七十七名であります。
寄附行為について支部役員としても、同窓会員各自の母校愛に基いて、御寄附を載くことを要請して、協力することを誓いあいました。
是非とも本校創立記念行事と、その事業等を成功させたいものであります。
当会の近況を述べ、新年の挨拶といたします。
(昭和十七年卒)

が、幸に同窓生の方々の絶大なご協力により予想通りに計画が進められる現状でありました。特に昨年死去された大先輩の佐藤勝次翁のご厚意とご遺志により記念事業及び学校への寄付金として非常に多額をお贈りいただいたことは、まことに本事業推進にわたってこの上ない力となりました。学校側はもちろん同窓生の皆さんと共に翁のご冥福を祈り感謝を申し上げます。

編集後記



おことわり

この御芳名簿は昭和五十年末現在、会工高事務局長に申し込み又は御入金いしませんでした方々でございます。

これ以後にも多数の方々が御申し込みがございましたが、当会報発刊の期日の都合によりまして、真に勝上、前記期日まで御申込まれ、前記期日まで御申込みがございました順に並び・個人・会社・団体

勿論、関連施設には深刻な打撃を与えました。逆に来国に於ては、大寒波襲米を報せられその追討ちをするかの様に、ワシントン市内のボトマック川への旅客機墜落事故という惨事がありました。その中でも一際目を引き感銘を与えたのは諸氏もご存知の勇猛果敢な男性の行動ではないでしょうか。自分に投げられた救出用ヘリコプターからの命綱を幾度も他人に渡し遂に力尽きて自分自身は水中に没してしまつた光景です。

「袖すり合うも多少の縁」と言いますが、たかが飛行機に同乗したというだけで、命の恩人になってくれる人もあるわけで、我々同窓生は、多少の縁どころでは無く、同じ釜の飯を何年か食べた同胞です。これからもより堅き協力を維持し、母校、同窓生の益々の発展を期して止まないところであります。

終りになりましたが、人生無情、よどみに浮ぶうたかたは、かつ消え、かつかわるにすぎなく、とどまることなし……………」

本同窓会の巨屋とも申すべく、御二方が御逝去さされた事、心から御冥福を祈り申し上げます。

追、各地の同窓生諸兄より、本紙に對しまして、御挨拶をいただいたにもかかわらず、紙面の都合により、割愛させていただきますことを深くお詫び申し上げます。

